



今回は「出雲國たたら風土記」の核となる、鉄づくりの舞台を取り上げます。ここ出雲地方には世界で唯一、たたら姿が伝わっています。

世界で唯一現存 菅谷たたら山内

山内とは、たたら操業を行っていた製鉄施設と職人の住居を指します。菅谷たたら山内は、吉田町の田部家が江戸から大正時代まで、実際に鉄をつくっていた場所です。

また、操業当時の姿が世界で唯一現存し、映画「もののけ姫」のヘタ、

日本遺産 「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語

連載その2 **たたら今昔**

たたら場のモチーフとなったことでも知られています。

「本物」だけが持つ独特の空間

(左) 日本刀の原材料となる玉鋼。(下) 谷たたら山内。いちばん奥が高殿。



と周囲の景観は、訪れる者を圧倒します。たたら製鉄に従事した職人やその家族たちの生活や息遣いを、時空を飛び越えて体感することができる貴重な場所です。(国指定重要有形民俗文化財、雲南市吉田町)

世界に誇る日本の技術 玉鋼製造(たたら吹き) 伝承

1300年以上にわたり連続と継承されてきた世界で唯一の製鉄法「たたら吹き」。今もなお、奥出雲町で操業されるたたら吹きは、日本刀の原材料である「玉鋼」を生産するとともに、た



たらの技を伝え、後継者を育成しています。

炎が燃え上がる様子は、たたらの神様「金屋子神」の存在を感じさせる神秘性があります。また、職人の作業は今日の先端技術でも説明できないほど緻密なものです。

まさに、ものづくりの原点であり、世界に誇る日本の技術といえます。(国選定保存技術、奥出雲町大呂)

たたらに関する出前講座を実施します。詳しくは和鋼博物館(電話23-2500)へ。



安来市加納美術館だより 電話36-0880

河井寛次郎展を開催中

陶工河井寛次郎さんが亡くなって50年が経ちましたが、安来の人々は、今もなお尊敬の気持ちと親しみをもち続けています。

てつくった作品など1000点以上が出品されています。幼い頃の思い出を胸に感動とともに生きた寛次郎さんの思いに触れてください。

安来市は、寛次郎さんのものづくりの喜びやふるさとへの思いを知っていただきたいと願って「今こそ永遠 河井寛次郎展 ―ふるさと安来への言伝―」を開催しています(会場は安来市加納美術館)。

期間中、様々な行事が市内各地で開かれています。詳しくは安来市教育委員会または加納美術館に問い合わせください。
《会期》12月4日(日)まで
火曜休館
《開館時間》9時から16時30分(入館は16時まで)
《入場料》一般1000円、高校・大学生500円、中学生以下無料。



河井寛次郎「三色碗」

名碗を愉しむ会(11月) 「もみじ茶会」

作品鑑賞の後、茶室「如水庵」にて呈茶。名碗を手にとりてご覧いただけます。▼日時：11月20日(日) 午前の部10時～・午後の部13時～
▼料金：2500円(入館料込) ▼申込期限：11月17日(木)



◀ 11月の名碗：浜田庄司(人間国宝)「柿釉赤絵茶碗」ほか